

## 「卓越大学院プログラム」中間評価結果

機関名	東京工業大学	整理番号	1807
プログラム名称	「物質×情報=複素人材」育成を通じた持続可能社会の創造		
プログラム責任者	益 一哉	プログラムコーディネーター	山口 猛央

### (評価決定後公表)

<p>(総括評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ S:計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。</li> <li>□ A:計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。</li> <li>□ B:一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。</li> <li>□ C:取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行う必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。</li> <li>□ D:取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。</li> </ul> <p>[コメント]</p> <p>大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立については、本プログラムをパイロットプログラムとして大学院改革を進めており、①全学院を横断する3分野を専門とする教育課程の設置、②産業界からの教育に対する経済的支援の確保（産学協創教育）、③産業界と共創した博士育成を柱とし、産業界との連携を強化した博士教育の実施を中期計画にも明記するなど、その実現性が大いに期待される。</p> <p>修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性については、KPIの論文数等でみても、また国際学会での報告件数などにおいても目標値を上回っており、ラボ・ローテーションで行った研究報告が Student Best Paper Award を受賞するなど、量・質の面で向上が見られる。独創力、俯瞰力、実行力、国際リーダーシップ力を兼ね備えた複素人材の育成をきめ細やかなプログラムで行っており、修了者の活躍は大いに期待される。</p> <p>高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導体制の整備については、企業メンターや海外メンターが、研究やキャリアパスについてアドバイスを行っている。物質・情報プラクティクススクールでは課題解決の実行力を、必修基盤教育では独創力を、ラボ・ローテーションでは異分野研究スキルや独創力を、未来社会サービス創出ワークショップでは俯瞰力やリーダーシップ力を涵養するなど、大学内だけにとどまらず企業の技術者・研究者や海外研究者を含めた複合的な指導体制を敷いていることは大いに評価できる。</p> <p>優秀な学生の獲得については、入門セミナー（TAC-MIセミナー）の開催等によりプログラムの魅力を直接学生に伝え、パンフレット、ニュースレター等の発行・配布など内外に当該プログラムの魅力を積極的に伝えている。学生の経済支援も充実しており、応</p>
---

募者に対する合格率は約 50%と、優秀な学生の確保に努めていると評価できる。

世界に通用する確かな質保証システムについては、産官学の国内外トップクラスの研究者による指導体制が敷かれていること、企業審査員なども置かれ学位審査も多角的に行われる体制となっていること、適切なQEも設定されているなど、質保証システムは機能していると評価できる。

事業の継続・発展については、2019年度にプラクティススクールに加え会員企業制度を開始し、会員企業数は、2021年度は目標の25社を上回る31社に増大し、補助金終了後も学生の経済支援経費などの継続が期待できる。プラクティススクールも単なる履修生の育成指導にとどまらず、受け入れた企業側も大きなメリットを得ており、産学協創教育の教育的効果と同時に活動の原資が着実に増えていることから、事業の継続・発展が期待される。